



【めざす学校像】「自己決定し共に生きる力を育む学校」

- ・たすけ合う子
- ・かんがえる子
- ・きたえる子



おおぞら



自分たちで学級生活をよりよくする 校長 堀口 雪子

一年で最も寒さの厳しい毎日が続きます。1月はグッドあいさつ月間として、あいさつを自分からする子、大きな声であいさつを返す子など寒さに負けず声を出し、自分の心のスイッチを入れています。

さて、いつも子供たちには「学校は遊園地のような楽しさを用意されている所ではない。自分たちで楽しさやよりよい生活を共に作っていく所である。」と話しています。そのために、子供たちは友達と助け合い、たくさん考え、工夫した活動を続けています。まさに、学校教育目標のたすけあう子、かんがえる子、きたえる子を日々実践しています。その活動の一つである係活動と学級会を2月のお話集会で紹介しました。各学級の創意工夫を知り、自分たちの活動のヒントにしたりさらにアレンジをしたりして各学級の活動がさらに活発になると嬉しいです。

クイズ係（学級の友達に自作の漢字クイズやなぞなぞを出します。）

遊び係（いつ、どこで、何をして遊ぶのかお知らせをして、休み時間の遊びを計画します。）

折り紙係飾り係（高北小で一番多い係です。大好きな折り紙で作品を作り、掲示します。）

新聞係（好きな給食ランキングや学級に関するクイズ問題、自作の4コマ漫画などを新聞にします。）

本・漫画係（こわい話や面白い話などを作り本にします。）

いいね係（みんなのよい所を見つけて発表します。）

思い出係（学校行事で学んだことや思い出を絵や写真でまとめ、掲示します。）

誕生日係（お誕生日の友達へプレゼントを渡したりやお祝いの言葉をかけたりします。）

★どの学級にも人気のある遊び係も「みんなが笑顔!!遊び係」と係の名前も工夫されています。

子供たちのアイデアのよさに驚かされます。そして、自分の得意なことを学級のために生かしていること、友達と工夫しながら取り組んでいることが「自分たちで学級生活をよりよくする」につながっています。あるものから創り出すへ、やらされるからやりたいへ、子供たちにはその力が十分にあります。残り2ヶ月、子供たちの創意工夫が楽しみです。



現在、学校では来年度の教育計画を立てています。その一つに授業時数の適正化があります。定められた授業時数を70時間以上超過している学校が多く見受けられ、国からもその適正化を求められています。70時間多いということは、1週間に2時間多く時間割を組んでいることとなります。お子さんをはじめ学校に関わる全ての方々がゆとりを持って過ごすことが目指す学校像の具現化の方策と考え、本校も来年度短縮日課を増やすなど、授業時数の見直しをします。また、全ての学校行事等も感染症以前と同様に戻すことは考えていません。教育活動のねらいを達成する内容と方法を吟味していきます。

トップアスリートふれあい事業

1/31 に箱根駅伝で活躍された東洋大学駅伝部の監督さんと選手3名の方が来校し、5・6年生と一緒に走ったり走る時の姿勢や呼吸法を教えていただいたりしました。おにごっこでは選手の方が鬼となりましたが、あっという間に捕まりその速さにびっくりしました。

スポーツタイムでは、1～4年生までが校庭のトラックを選手達と一緒に走り、追いつこうと頑張ったり隣に並んで走ったり、とても楽しい時間となりました。

この事業を通して、子供たちが憧れの気持ちを抱いたり運動の楽しさを味わったりすることができました。

運動が苦手だったけれど、走るコツを聞き走りたいと思えた。走るのが楽しいと感じた。体育の授業でも生かしていきたい。(6年)

防犯スポーツ教室

2/1 に3年生防犯スポーツ教室が昨年度に引き続き行われました。下校中、不審者に追いかけられそうになった時、どのような行動をとればよいかを学ぶことがめあてです。NPO 法人の講師の方によるデモンストレーションと練習で子供たちは学んだことがたくさんありました。

★下校中、不審者に追いかけられそうになったら

- ・後ろや周りをよく見て不審者の歩く方向と反対の方へ逃げること
- ・ランドセルを投げ捨てて走って逃げること
- ・あきらめないで逃げること
- ・大きな声を出して、周りの大人に助けを求めること

★ワゴン車などの車から道を尋ねられたり、話しかけられたりしたら

- ・車の進行方向側前に立ち運転席やドアから遠ざかること

(車の後部座席のスライドドアに引きずり込まれる事件が実際に起きています。ドアの前は危険です。)

★不審者かどうかわからないときは、怖いと感じたら逃げること

日々の登下校の見守りのご協力ありがとうございます。いざという時、自分の身を自分で守れるよう学校でも指導を続けていきます。ご家庭でも話題にしてみてください。

大谷翔平選手からの寄贈グローブ

1月上旬、待ちに待った大谷翔平選手からのグローブが届きました。大谷選手から「私はこのグローブが私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルになることを望んでいます。」というメッセージがありました。子供たちにグローブの使い方を大募集し、いま、各学級に回っています。実際に手にはめ、キャッチボールをしています。野球にふれるよい機会となっています。(ある会社よりサッカーボールの寄贈もありました。)

